

大会プログラム 3月17日(土)

【第1会場】(2階講堂)

13:00~13:10 開会あいさつ

13:10~14:10 基調講演

認知症の臨床倫理

演者：朝田 隆(東京医科歯科大学)

座長：山口 武兼(第6回年次大会長)

14:20~15:50 シンポジウム1：臓器提供・移植をめぐる臨床倫理

座長：杉谷 篤(米子医療センター外科)

S1-1 日本人の死生観と臓器提供・移植—移植医から見た和田心臓移植の再検証も含めて—

演者：杉谷 篤(米子医療センター外科)

S1-2 救急・脳外科施設の立場からの脳死と臓器移植について：提供現場の現状

演者：横田 裕行(日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野)

S1-3 医学部教育と臨床倫理コンサルテーションから脳死臓器移植を考える

演者：佐藤 芳(藤田保健衛生大学医学部倫理学)

16:00~17:30 シンポジウム2：臨床現場におけるDNARをめぐる倫理的諸問題

座長：三宅 智(東京医科歯科大学)

S2-1 シンポジウム2：臨床現場におけるDNARをめぐる倫理的諸問題

演者：丸山 正則(上越総合病院)

S2-2 南砺市版POLST作成・運用の経験と事前指示に関する考察

演者：清水 幸裕(南砺市民病院診療部)

S2-3 DNARをめぐる誤解と混乱

演者：板井孝壱郎, 三浦由佳里(宮崎大学医学部附属病院中央診療部門
臨床倫理部)

【第2会場】(5階会議室A)

14:20~15:50 倫理コンサルテーション1

人工心臓事例について

座長(ファシリテーター)：野々木 宏(静岡県立総合病院)

事例提供：飯島 祥彦(名古屋大学大学院医学系研究科生命倫理統括支援室)

16:00~17:30 倫理コンサルテーション2

食べられなくなった認知症高齢者の事例について

座長(ファシリテーター)：竹下 啓(青山学院大学)

事例提供：砂川 昌子(東京都健康長寿医療センター)

【第3会場】(5階会議室B)

14:20~15:50 倫理コンサルテーション3

予後不良な乳児への集中治療継続をめぐる葛藤

座長(ファシリテーター): 稲葉 一人(中京大学法科大学院)

事例提供: 福地 千晴, 須賀麻由里(名古屋第二赤十字病院ICU)

明石 恵子(名古屋市立大学看護学部), 山口 均(一宮市立市民病院), 稲葉 一人(中京大学法科大学院)

16:00~17:30 倫理コンサルテーション4

人工透析の継続について

座長(ファシリテーター): 稲葉 一人(中京大学法科大学院)

事例提供: 馬場 葉子, 宇田 淳子, 大椋 裕美(横浜労災病院看護部),

三上 容司, 津久井 要, 周藤 高, 飛弾麻里子, 中山 貴博,
藤本 潤一(横浜労災病院医師), 藤田 寛(横浜労災病院MSW),
楠瀬まゆみ(理化学研究所上級技師)

大会プログラム 3月18日(日)

【第1会場】(2階講堂)

- 9:00~10:30 シンポジウム3: 認知症の意思決定支援について
座長: 新田 國夫(日本臨床倫理学会理事長), 稲葉 一人(中京大学法科大学院)
- S3-1 医療者の立場から
演者: 小川 朝生(国立がん研究センター先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野)
- S3-2 ソーシャルワーカーの立場から
演者: 池田恵利子(公益社団あい権利擁護支援ネット代表理事/日本成年後見法学会副理事長)
- S3-3 介護支援専門員の立場から~現状と課題~
演者: 助川未枝保(船橋市三山・田喜野井地域包括支援センター センター長/一般社団法人日本介護支援専門員協会 地域包括支援センター部会 部会長)
- 10:30~12:00 シンポジウム4: 地域包括支援における臨床倫理
座長: 山田 陽介(東京都保健医療公社豊島病院緩和ケア内科)
- S4-1 地域包括ケアシステムを見据えたかかりつけ医の立場から
演者: 佐藤 恵(佐藤クリニック)
- S4-2 在宅でのケアマネジメント: 臨床倫理の4分割法活用の効果
演者: 山田登喜子(特定非営利活動法人ゆうらいふ)
- S4-3 意思決定支援に関わる専門職の要件を考える
演者: 土肥 直樹, 小川 薫(相模原市国民健康保険内郷診療所)
- S4-4 高度急性期医療の現場から—地域共生社会実現に向けた医療倫理問題検討委員会の取り組み—
演者: 内田 美加(社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院/医療倫理問題検討委員会事務局)
- 12:10~13:10 ランチョンセミナー1
医療倫理を考える~生殖医療の進歩の中で~
演者: 吉村 泰典(内閣官房参与, 慶應義塾大学名誉教授)
座長: 箕岡 真子(東京大学大学院医学系研究科/箕岡医院)
共催: セコム医療システム株式会社
- 13:20~13:40 総会
- 13:50~15:20 シンポジウム5: 多職種協働による臨床倫理コンサルテーションの実践
座長: 三浦 靖彦(東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部)
- S5-1 函館オープンカンファレンスの実践
演者: 川口 篤也(函館稜北病院)

- S5-2 当院における臨床倫理コンサルテーションの活動と多職種が交わるための工夫
 演者：馬場 葉子(横浜労災病院)
- S5-3 多職種協働による臨床倫理コンサルテーションの実践
 演者：植竹 日奈(国立病院機構まつもと医療センター)
- S5-4 多職種協働による臨床倫理コンサルテーションの実践
 演者：井上 京子(調布市医師会訪問看護ステーション)

【第2会場】(5階会議室 A)

- 9:00～10:30 倫理コンサルテーション 5
 子どもにとって最善の方針は誰が決めるのか？
 一保護者の不仲・意見の不一致を認めた重度心身障害児を通して—
 座長：加部 一彦(埼玉医科大学総合医療センター)
 演者：遠藤 雄策(浜松市発達医療総合福祉センター友愛のさと診療所小児科), 高 真喜(聖隷浜松病院小児看護専門看護師), 杉浦 弘(聖隷浜松病院新生児科)
- 10:30～12:00 教育セミナー
 摂食嚥下障害と倫理
 演者：藤島 一郎(浜松市リハビリテーション病院)
 座長：箕岡 真子(東京大学大学院医学研究科/箕岡医院)
- 12:10～13:10 ランチョンセミナー 2
 臨床研究法・医学系指針とこれからの医学研究
 演者：吉田 雅幸(東京医科歯科大学)
 座長：稲葉 一人(中京大学法科大学院)
- 13:50～14:50 教育講演
 アドバンスケアプランニング—いのちの終わりについて話し合いを始める
 演者：木澤 義之(神戸大学医学部附属病院緩和支援治療科)
 座長：三宅 智(東京医科歯科大学)

【第3会場】

- 8:30～9:40 一般演題 1 倫理教育
 座長：川崎志保理(順天堂大学)
- ①-1 かかりつけクリニックの臨床倫理教育「きたくりりんりかふえ」
 演者：保坂 幸男(北多摩クリニック)
- ①-2 高大連携教育における生命倫理教育プログラム策定私論～四分表を用いたドラマによるケーススタディ～
 演者：金山 昭夫(立教新座中学・高等学校)
- ①-3 看護部倫理委員会の10年間の活動から今後を考える
 演者：木元 優子(地方独立行政法人市立秋田総合病院看護部)

- ①-4 多職種による倫理研修の実際
演者：小瀬裕美子(名古屋第二赤十字病院看護部)
- ①-5 急性期病院における看護師を対象とした倫理教育方法の検討
演者：廣瀬 理絵(公立大学法人福岡県立大学看護学部)
- ①-6 倫理的問題に気づき・倫理コンサルテーションのできる人材を地域で育てる Part 2
演者：小畑亜由美(公益社団法人調布市医師会訪問看護ステーション)
- ①-7 臨床倫理教育研修の評価と課題
演者：新井 誉子(日本大学医学部附属板橋病院)
- ①-8 4分割法事例検討を用いた倫理コンサルテーション活動の展開と今後の課題
演者：滝川 章子(倉敷医療生活協同組合総合病院水島協同病院)
- ①-9 看護師の倫理観向上のための活動報告
演者：大西 明子(豊島病院看護部)
- ①-10 作業療法学生の学年ごとにおける「専門職として有するべき徳」の必要度と充実に関する調査
演者：山野 克明(熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科)

9:41~10:30

一般演題2 高齢者

座長：竹下 啓(青山学院大学)

- ②-1 摂食嚥下障害に関する倫理カンファレンスの取り組み
演者：岡本 圭史(浜松リハビリテーション病院えんげと声のセンター)
- ②-2 急性期病院における高齢者への意思決定支援の倫理的課題と対策～多職種カンファレンスの活性化～
演者：稲野 聖子(市立池田病院)
- ②-3 医療施設における看護師の倫理的悩みへの倫理環境の関連
演者：實金 栄(岡山県立大学)
- ②-4 終末期がん患者の不眠に対してプラセボ治療を実施した一例—倫理カンファレンスでの検討—
演者：文岡 礼雅(関西医科大学総合医療センター)
- ②-5 看護記録における「身の置き所のない」という記載についての質的評価
演者：入澤 仁美(順天堂大学)
- ②-6 終末期における本人・家族の想いを大切にしたい関わりについて～法人内連携と有料老人ホームの強みを活かして～
演者：中丸 智保(介護付有料老人ホームクローバーガーデン)
- ②-7 認知症高齢者本人の意思と家族の意思の違いについて～胃瘻閉鎖をめぐる意思決定支援から学ぶ
演者：佐藤 未喜(石巻赤十字病院)

10:31~10:52 一般演題3 在宅

座長：呉屋 朝幸(小山記念病院)

- ③-1 連携という名の役割分担～多職種連携がつくるジレンマ
演者：保坂 幸男(北多摩クリニック)
- ③-2 チーム力による在宅医療の実践より
演者：辻 弘美(クローバーホスピタル在宅診療部)
- ③-3 ケアマネジャーの経験するモラルディストレスにはどのような倫理的
ビリーフが影響するのか
演者：伊藤 隆子(順天堂大学医療看護学部)

10:53~11:49 一般演題4 倫理コンサルテーション

座長：清水 貴子(聖隷浜松病院)

- ④-1 臨床倫理コンサルテーションの立ち上げからの取り組み
演者：金田浩由紀(関西医科大学総合医療センター)
- ④-2 当院における臨床倫理支援室の立ち上げと展望
演者：鈴木 肇(新潟市民病院臨床倫理支援室)
- ④-3 終末期がん患者への化学療法の可否をめぐる倫理的問題—医師・看護
師間の意見の不一致に関連して—
演者：佐藤 ミカ(石巻赤十字病院看護部)
- ④-4 当院における倫理コンサルテーションチームの活動から見えた課題
演者：小竹 昌子(南砺市民病院看護部)
- ④-5 倫理コンサルテーションチーム活動の拡がり～部署間コンフリクト解
決への試み～
演者：野口 善令(名古屋第二赤十字病院)
- ④-6 倫理コンサルテーション活動を受ける立場になってみて
演者：久田 敦史(名古屋第二赤十字病院)
- ④-7 「医療チームと患者・家族の価値の対立」がある症例に対する倫理コン
サルテーションチームの活動報告
演者：永富美知子(名古屋第二赤十字病院看護部)
- ④-8 急性期病院における倫理コンサルテーションの実態
演者：葛西 陽子(手稲溪仁会病院)

13:50~14:11 一般演題5 急性期

座長：富田 博樹(日本赤十字社)

- ⑤-1 延命治療の中止を希望した若年夫婦への支援につい
演者：室岡 明美(九州大学病院医療連携センター)
- ⑤-2 良性疾患終末期において「自律」を尊重する際の問題点
演者：加藤 亙(名古屋第二赤十字病院心臓外科)
- ⑤-3 終末期の救急隊搬送調整とPOLST導入の取り組み
演者：山下 進(JCHD 徳山中央病院救命救急センター)

14:12~14:40 一般演題6 小児

座長：加部 一彦(埼玉医科大学総合医療センター)

- ⑥-1 産科, NICU スタッフ間に生じた倫理的葛藤に対する臨床倫理コンサルテーションチームの介入—NPO 法人を介して妊娠中に特別養子縁組契約をした母親の事例を通して—

演者：深谷 基裕(名古屋第二赤十字病院看護部)

- ⑥-2 家族も含めたチーム協働カンファレンスを実践するための課題と解決策

演者：井上みゆき(山梨県立大学)

- ⑥-3 「救急・集中治療における終末期に関するガイドライン」(以下 GL)に対する小児救急医療現場の葛藤

演者：加藤美穂子(あいち小児保健医療総合センター脳神経外科)

- ⑥-4 医療における子どもへの説明—チャイルド・ライフ・スペシャリストへの依頼内容の考察と職種役割について—

演者：塩崎 暁子(長野県立こども病院療育支援部)

14:41~15:30 一般演題7 その他

座長：板井孝壱郎(宮崎大学)

- ⑦-1 ALS 症例の人生最終段階に向けての意思決定支援～ケアマネジャーとしての支援を探る～

演者：矢原 生子(ゆうらいふ居宅介護支援事業所)

- ⑦-2 選択的人工妊娠中絶と出生前診断を行う産科医にとっての相模原障害者殺傷事件に対する応答可能性の検討

演者：中井祐一郎(川崎医科大学産婦人科学)

- ⑦-3 多系統萎縮症における臨床倫理的議論の必要性—筋萎縮性側索硬化症との比較—

演者：下畑 享良(岐阜大学大学院医学系研究科神経内科・老年学分野)

- ⑦-4 親族との関わりを拒否する独居患者の支援について

演者：川端 宏輝(国立病院機構南岡山医療センター医療連携室)

- ⑦-5 手術を控えた統合失調症患者の意思形成支援における中立的立場に難渋した一例

演者：佐藤 幸代(関西医科大学医療センター臨床倫理・合意形成支援センター)

- ⑦-6 「エンディングノート」は誰れのためのものか

演者：小島 茜(青山学院大学教育人間科学部)

- ⑦-7 性暴力被害者(性虐待)への支援活動について—2つの事例を通じて考える多機関多職種連携のあり方—

演者：坂本 理恵(名古屋第二赤十字病院)